

教育の場での福祉

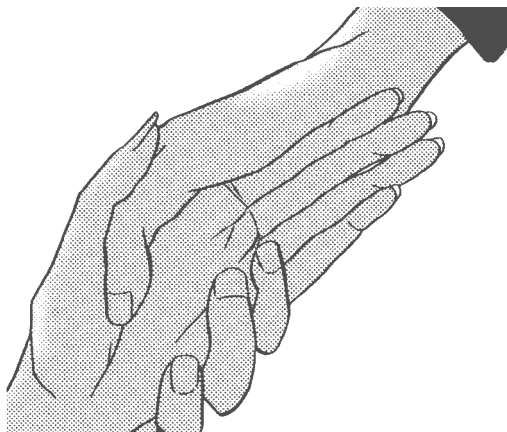


岡崎市教育委員会
SSWrスーパーバイザー
山本 隆三 氏

教育随想

スクール・ソーシャルワーカーが何をする人なのか、学校のために何をしてくれる人なのか、先生方の間ではまだまだ理解していただけない状態です。今回、「岡崎の教育」に教育に関する随想を掲載していただくという機会に恵まれ、本当にうれしく思います。私たちスクール・ソーシャルワーカーが自ら自分たちの役割について説明させていただくチャンスですから。

さて、学校は子供の居場所です。学校における福祉とは「困っている子」を支援することです。「困っている家庭」を支援するのは行政の仕事です。「困っている子」とは、先生方が学校で、教室で「困った子だなあ」と感じる子どものことです。先生方が指導に従わない子、期待に届いてくれない子のことです。そこでSSWrは考えます。「この子を取り巻く環境がこの子のもっている力を表現できなくしているのではないか」と。



これからも先生方と力を合わせて岡崎の子どもたちのために努力していきたくと思っています。
(やまもと りゆうぞう)



平成 31 年 2 月 1 日

2 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市教育委員会 SSWr スーパーバイザー 山本 隆三 氏	
この人に聞く……………	2
シンガーソングライター 森 彩乃 氏	
羅 針 盤……………	2
羽根小学校長 岡本 弘	
ふれあい……………	3
香港日本人学校 鈴木 基之	
特 集……………	4
地域と人をつなぐ 昔と今をつなぐ 奥殿陣屋	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
農業実習地開墾 (昭和 10 年)	
この本を……………	8



その道に行く

シンガーソングライター
森 彩乃 氏

「クアイフ」と検索する。「絶対的、鍵盤系ドラマチックポップバンド」として人気上昇中だと分かる。

「テレビに出て、誰もが知るバンドになりたい。ライブハウスよりホールで演奏したい。もっと先に行けるっていつも考えています。」

人懐っこく笑う。だが、その言葉に強い意志を感じた。森氏は、ピアノ講師をしている母親の影響で幼い頃からピアノを習ってきた。

「小中学生のころの夢はピアノの先生。ピアノニストにはなれないだろうと思っていたのですが、それでも当たり前のように、この先もピアノに携わる職業で、食べていくだろうと思っていました。」

ところがある日、ふとつけたテレビに映るアーティストに衝撃を受けた。

「すぐにライブに行きました。そのときの光景が素晴らしくて。みんなが涙を流しているのです。音楽にはこんなにも力があるのだと。その人にしかない歌ですよ。私もあっち側に行きたいと思ったのです。」

大学の授業後は、ライブハウスでバンド活動。音楽会社に音源を送ったり、オーディションを何度も受けたりと、精力的に活動するも、初めて組んだバンドは解散。それでも大学卒業後、ソロでの活動を続けた。飲食店で働いたり、子供にピアノを教えたりとバイトばかりの生活が続いた。そんな中、音楽関係者に認められ、デビュー目前まで来た。しかし、レコード会社の都合でその話は消えた。

「心が折れかけました。諦めかけました。だけど、下を向くことはしませんでした。」

そうできたのは、温かく見守ってくれる両親のもとで育まれた明るさ、音楽を通して出会った人たちのつながりのおかげだと語る。

「この道でいいのか、正直迷いました。今やっているピアノの先生の手までいいじゃないかと。小さい頃から、あまり努力をしなくても、どんなことも、ある程度はできました。でも、やれることをただこなしていただけだったのです。今は、やりたいことが見つかったのです。この道を行きたい。そう強く思う自分がいきました。そして、その道に進む私の背中を押してくれたのが周りの人で、温かく見守り、許してくれたのは両親でした。」

今のメンバーと出会い、バイトをしながら地道なライブ活動を続けた。その積み重ねが、ラジオ局のディレクターの目に留まり、ついにメジャーレーベルからアルバムを発表することとなった。

「この道は、不安定で厳しい道です。それでもやりたいことだから、諦めたくないし、自分の心にうそはつけません。私の歌をお客さんに届けて、共感してもらいたい。自分って何だろうと、もがいて、あがいて、考え続けています。そして、自分の心に今あるものを歌にしています。」

と歌への思いを熱く語る。

「やっぱり人とつながりの大切さを感じますね。ファンの方々から、この曲に救われましたとか、いつも聞いていますと手紙をもらうのです。その人の生活に自分たちが入っていると感じるのがうれしいです。つながっているのですね。」

信念を貫いて歩む。その歩みは、力強い。



氏名 もり あやの
生年月日 昭和六十二年十一月十九日
住 所 岡崎市真伝町



多様性を認め合い

共生していく学校へ

羽根小学校長
岡本 弘

本校では昨年度、人権週間に合わせて、「みんなちがってみんないい」をテーマに、個々の多様性を理解し自分らしさを大切にする心や、違いを認め合う心を育てるために、人権擁護委員の方々と集会を開いた。

さらに、本年度は、学校保健委員会、四年生以上の児童と保護者を対象に、LGBTについて学ぶ機会を設けた。その中で、性の多様性への理解を促し、思いやりの心を育てる取り組みを行った。

子供たちにLGBTの知識はほとんどなく、始めは、自分とは違う世界のことと考えていたようであった。しかし、当事者の話を聞いたり、グループ交流で質問したりすることで、子供たちから、「自分は自分で



香港に来てよかった！

香港日本人学校
鈴木 基之

A男は、中学に進学すると同時に父親の仕事の都合で香港に転居してきた。入学前の説明会では、無表情で、隣に座る母親と会話をすることもなく、ただ前を見つめていた。

「日本に帰りたいです。」

四月当初、A男の口からは、この言葉しか聞けなかった。

初めての場所にすぐ慣れる子供ばかりではない。ましてや、ここは香港。心細く、寂しい思いをしている子は少なくない。A男の明るい顔が見たい。担任として、強い願いをもった。しかし、四月の半ばになっても、その表情に変化は見られなかった。A男は自分から話しかけることができず、周りの生徒たちも共通の話題を見つけられずにいた。私が話しかけても、反応が乏しい。私は、毎日の交流になる「生活の記録」から関係をつくっていかうと考えた。そこで、

A男に、「A男のことが知りたいな。どんな内容でもいいから、書いて出してくれるかい。」

と声をかけた。そうすると、少しずつだが、ゲームについて書いてくるようになった。わずかな量ではあったが、「生活の記録」を通してA男と会話ができるようになってきた。

六月になり席替えをすると、A男はB男と同じ班になった。それを機に、A男がB男と話している姿を見かけるようになった。そこで、次の席替えでもA男とB男が同じ班になるようにしたところ、七月には二人で行動することが多くなり、A男に少し笑顔が見られるようになった。気持ち少しずつ前向きになってきて、「生活の記録」には、ゲーム以外のことも書くようになった。

九月、一度帰国して気持ちの整理ができたからだろうか、A男の笑顔が少しずつ増えていった。そして、勉強に対しても時間をかけるようになった。学習に前向きに取り組むA男の頑張りや、クラスの子に伝えた。そうすると、A男は自分の取り組みに自信をつけ、さらに意欲的に学習に取り組むようになっていった。

十月に行われる体育大会には、クラス全員で大縄を連続で跳んだ回数競う学級対抗の種目がある。体育大会を一週間後に控えた金曜日、実行委員から、「土曜日も集まれる人で練習したいので、大縄を貸してください」

という申し出があった。休日は、習い事をしている生徒が多く、集まるのが難しいと思ったが、彼らの熱意を大切に、練習を許可した。土曜日、その練習にA男の姿があった。休日には外出することがほとんどなく、家に閉じこもりがちだったA男が、一人で電車を乗り継いで練習場所にやってきたのである。休憩時間には、友達とゲームの話で盛り上がっていた。A男の笑顔がそこにはあった。「楽しそうでいいね。」と話しかけると、うれしそうにうなずいた。

体育大会後、A男はもう「日本に帰りたい」とは言わなくなった。A男の明るい笑顔や、前向きで活動的なA男の姿を、もっともっと見たい。そのために、A男ともしっかりふれあい、関わり合いたい。

「香港に来てよかった！」
そうA男に笑顔で言わせたい。いつかきつと。



いいのだ」「大切なのはみんな一緒に協力して生きていくこと」という感想を聞くことができた。子供たちは、自分を含めて人にはいろいろ個性があり、自分自身も他の人も、お互いが「らしさ」を認め合うことが重要だと考えるようになった。

今、学校には、不登校、虐待、いじめ、貧困、成績不振、日本語指導など、様々な教育上の支援や配慮を必要としている児童生徒がいる。このような状況においては、「障がいがあるから配慮する」ことはもちろん、「すべての児童生徒に、それぞれ必要な支援や配慮をする」ことが必要になる。その実現のためには、すべての児童生徒とすべての教師が、互いに多様性を認め合い、共生していく環境づくりが重要である。例えば、悩みをもつ子供たちが相談できるようなサポートチームを置き、LGBTであれば、制服や体操着の着用を柔軟に扱ったり、男女混合の名簿を使用したりといった対応を行うようにしたい。そのために、教員の研修を進め、教員自身が多様性を理解することが不可欠である。

今後、価値観の多様化はますます進むであろう。未来を生きる子供たちには、自他を尊重し、お互い認め合って共に生きてほしいと思う。



▲ 奥殿陣屋の前の空き地で、全校児童で採取したワラビを販売する6年生（奥殿小学校）

ゆかいのある人物



なが い なお ゆき
永井尚志
 (1816 ~ 1891)

- ・ 乗尹の2男。25歳で永井家の養子となる
- ・ 幕府の若年寄として15代将軍徳川慶喜のもとで活躍
- ・ 日本海軍の創設
- ・ 大政奉還文の起草



げん げん さい せんのそうしつ
玄々斎千宗室
 (1810 ~ 1877)

- ・ 10歳で裏千家10世認得斎千宗室の養子となる
- ・ 茶道家元裏千家11世
- ・ 近代茶道の祖と言われる
- ・ 椅子を用いた立礼式の点前を考案

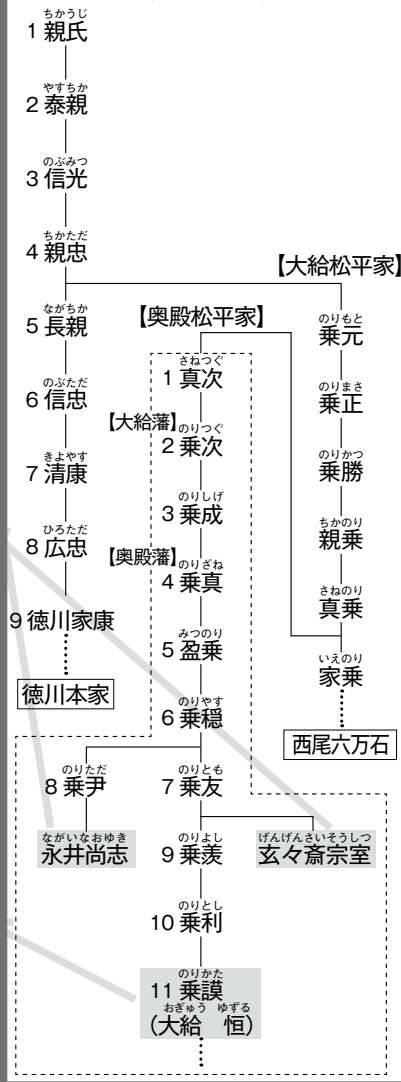


まつだいらのり かた おぎゆうゆうする
松平乗謨 (大給恒)
 (1839 ~ 1910)

- ・ 奥殿藩8代藩主
- ・ 戊辰戦争の勃発と同時に幕府の職を辞して大給と改姓
- ・ 明治政府賞勲事務局総裁として賞勲制度の確立に尽力
- ・ 博愛社（日本赤十字社の前身）の創設者の一人

※ 写真は『奥殿陣屋』（一般社団法人岡崎パブリックサービス）から

松平家系図 (関係分)



陣屋とは、藩の藩庁が置かれた屋敷のことである。奥殿松平家の初代は真次で、二代將軍家忠の家来として大阪の陣で活躍し、大番頭に抜擢された。第四代乗真のとき、経済力と交通の便のよさを理由に、大給（現在の豊田市）から奥殿に陣屋を移し、奥殿藩が誕生した。当時の陣屋には、表御殿、書院、藩主住居、地方役所、学問所、道場、代官士分等の住居など十三棟が並んでいた。現在は、書院が復元されている。

奥殿藩に縁の深い人物の中には、日本の政治や文化などに大きく影響を与えた方もいる。奥殿陣屋には、彼らの偉業が分かる資料展示室があり、奥殿の歴史を後世に伝えている。このような郷土の貴重な史跡を生かした学習が、近隣の小・中学校で行われている。

近隣の学校とのかかわり

学びの場として

赤十字の元は、奥殿陣屋
にあったことがわかった。
(3年男子)



▲ 総合学習で大給恒について追究する
3年生



▲ 歴代藩主の墓を清掃する6年生

奥殿小学校



▲ 「買い物学習」を行う2年生

新香山中学校



▲ 花火資料館での調べ学習の様子
徳川家康の鉄砲隊が火薬の平和利用に腐心し
たことから、花火の発祥は三河という説がある。

発表の場として

細川小学校



▲ 「チャラボクラブ」の演奏



▲ 「伝統芸能クラブ」の演奏
三河万歳を素材とした「御殿万歳^{ごてんまんざい}」を継承

地域と人をつなぐ

夏



▲ 夏の陽射しを浴びて
咲くヒマワリ



▲ 華やかに咲き誇るバラ
親善都市の広島県福山市から寄贈されたものを、植えたことが始まり

五月・六月
バラまつり

春



▲ 春の訪れを伝える
チューリップ

四月
春まつり



奥殿陣屋 係長
鈴木雅幸さん

魅力ある奥殿陣屋には是非お越しくください。抹茶席では、玄々齋生誕の地で、抹茶を味わってほしいと思います。

冬



▲ 「ひな人形展」
書院で、約150体のひな人形と、吊るしびな27個が展示される。

二月・三月
ひな人形展



▲ 巨大な干支の絵を描き出す葉ボタン

秋



▲ 秋風に揺れる
コスモス

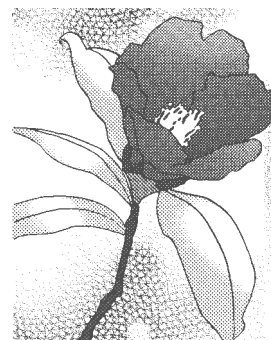
十月・十一月

秋まつり
収穫祭



▲ 鈴木さんおすすめの
抹茶ぜんざい

お知らせ



● 教育最新情報

◆ 来年度の研究発表校

来年度の市委嘱校の研究
主題と公開する授業の教科・
領域は次の予定である。

○ 上地小学校

・ 十月三十日（水）

（国語科）

【研究主題】

「正しく・深く読む子を育て
る国語科の授業
」説明文・文学の学習を通
して」

○ 岩津小学校

・ 十一月六日（水）

（算数科・理科・生活科・図画
工作科）

【研究主題】

「自ら考え、判断し、表現す
る岩津っ子の育成

～「IWAZU Style」をもと
にした授業づくり～」

○ 竜南中学校

・ 十一月十三日（水）

（全教科）

【研究主題】

「生徒の見方・考え方を育む
深い学びの構築
」主体的な学び、対話的な学
びを生かした教科の取組か
ら」

◆ 自主発表

○ 竜海中学校

・ 十一月二十日（水）

○ 附属岡崎中学校

・ 十一月一日（火）

○ 附属特別支援学校

・ 十一月八日（金）

○ 附属岡崎小学校

・ 十一月十九日（火）

・ 二十一日（木）

◆ 第62回小中学校書き初め展

一月十九日（土）・二十日
（日）の二日間、岡崎市美術
館で、小中学校書き初め展が
開催された。

市内小中学校及び聾学校、
附属学校から、二千点以上の
作品が展示された。

今年度も硬筆での書字力向上
を目指し、「硬筆作品の部」を
実施した。

本年度から二日間の開催と
なったが、六千人を超える方が
会場を訪れ、子供たちの作品
を鑑賞した。



展示された書き初め作品は、
文集「おかざき」に掲載される。

◆ 交通安全第70回岡崎市民 駅伝競走大会

一月二十日（日）に市民駅伝
競走大会が開かれた。市内



中学校から、男子37チーム、
女子36チームが参加した。

【大会の結果】

○ 中学校男子の部

優勝 六ツ美北中学校 A

二位 竜海中学校 A

三位 葵中学校 A

四位 南中学校 A

五位 矢作中学校 A

六位 甲山中学校 A

○ 中学校女子の部

優勝 矢作中学校 A

二位 六ツ美北中学校 A

三位 岩津中学校 A

四位 矢作中学校 A

五位 新香山中学校 A

六位 竜海中学校 A

○ フルート三重奏

銀賞 竜美丘小学校

○ クラリネット五重奏

銀賞 竜美丘小学校

○ サクソフォン四重奏

銀賞 竜美丘小学校

○ 金管八重奏

銅賞 竜美丘小学校

◆ 全日本ブラスシンフォニー
コンクール東京本選

○ 中学の部

敢闘賞 南中学校

● 表彰

◆ 愛知県中学生バスケットボール 新人大会

○ 男子

優勝 葵中学校

二位 矢作北中学校

◆ 愛知県アンサンブルコンテスト

○ 打楽器三重奏

金賞（東海大会に進出）
竜美丘小学校

○ 金管八重奏

金賞（東海大会に進出）
竜美丘小学校

◆第6回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール全国決勝大会

- 小学生自由曲部門
 - 二位 山中小学校
 - 六年生「3スマイルトレインポーズ」
- 小学生規定曲部門
 - 二位 生平小学校
 - 四・五・六年児童



◆第64回読書感想文コンクール愛知県コンクール

- 愛知県知事賞
 - 岩津中 朝岡 俊亮
- 愛知図書協会の賞
 - 城北中 為水ひなた

◆第62回日本学生科学賞愛知県展

- 最優秀賞
 - 名古屋市教育委員会賞

◆コカ・コーラ環境フォーラム2018

- 優秀賞（全国10校に選出）
 - 生平小学校

◆第11回こども絵画コンクール

- 低学年の部
 - 愛知県総合射撃場長賞
 - 羽根小 宮内 蒼真

愛知県青年の家所長賞

- 羽根小 板井みのり

◆愛知県小学生秋季大会

- 四年生以下男子ソフトテニス
 - 三位 藤川小 森 麻洋

◆読書感想文・読書感想画コンクール

- 【読書感想文】
 - 〈市長賞〉
 - 本宿小 富田 絢太
 - 奥殿小 杉浦 叶華
 - 岩津中 朝岡 俊亮

〈市議会議長賞〉

- 井田小 藤川 晟那
- 六名小 松井 咲弥
- 城北中 為水ひなた

【読書感想画】

- 〈岡崎南ライオンズクラブ会長賞〉
 - 井田小 藤川 晟那
 - 根石小 深尾 胡春
 - 六北中 山本 愛華

◆小中学校作文コンクール

【作文の部】

〈市長賞〉

- 福岡小 今泉 武琉
- 額田中 山本 華蓮

〈市議会議長賞〉

- 本宿小 丸山 恵生
- 大門小 岡田健太郎
- 竜海中 飯田 光浩
- 矢作中 内村 遥

〈教育委員会賞〉

- 梅園小 新井 築
- 男川小 金田 大佑
- 連尺小 永井 漣
- 井田小 磯部 耀
- 矢作南小 近 澄空
- 上地小 野中 宇太
- 竜海中 山本 愛結
- 竜海中 近藤 光優
- 翔南中 青柳 命

【詩の部】

〈教育委員会賞〉

- 広幡小 山本陽加利
- 南中 大谷 剛毅

※お詫びと訂正（一月号）

◆2018愛知陸上競技協会

駅伝競走大会

- 中学女子の部
 - 二位 矢作北中学校

●少年自然の家だより

子供の可能性

所長 川口 厚

「ネイチャー」という本所が主催する行事がある。なかなか個性豊かな子供たちが集まる。少年自然の家では、「自然体験を通して個を生かす」ために自主と自立を意識して活動を進める。ずいぶん騒がしくなるときもあるが、安全面やマナーに問題がなければとりたてて指導はしない。ここが学校行事の「山の学習」と少し違うところかもしれない。

この一年間、岡崎市内の四十七小学校を見てきて、学校の差がかなり大きいことを



餅つき ネイチャー第4期後

感じている。学校行事としての「山の学習」は、毎日の学校生活や子供たちの雰囲気、安全面からも、思い切って子供を自由にする活動をしにくいこととはよく分かる。しかし、「山の学習」に向けて、教師は自立、協力、思いやり、といった熱い思いを目標にする。その目標達成のための手段として、「山の学習」があるはずである。

本来「自然」は不便である。不便の中で、失敗や迷惑をかけることがある。そういう体験をさせ、時には指導をする。学校ではできない貴重な経験ができるのが「山の学習」の意義でもある。だから、ある程度は子供たちに任せる時間、自由な時間を作ることが、子供の可能性を伸ばす「山の学習」につながると感じる。

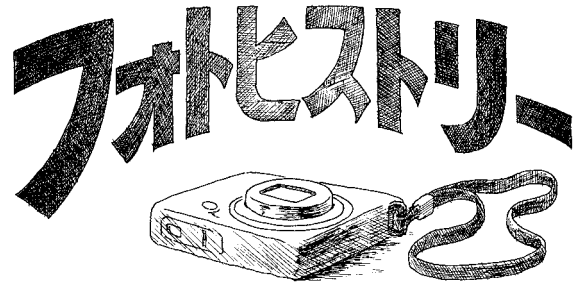
どの学校も事前の準備がきちんとされていて頭が下がる。それを思うと、本施設の職員が「どこまで口や手を出すか」という方針についても十分に話し合っていることが、先生方にとって有益な「山の学習」につながるのではないだろうか。

・カ
ツ
ト
愛宕小
川村たくみ

農業実習地開墾 (昭和 10年)

写真提供：下山小学校

ザクツ、ザクツ。鍬を振るう上級生。力
 いっぱい働いている子供たちの掛け声が聞
 こえてきそうである。これは、学校のすぐ
 南側にある通称「お熊野山」を、農業実習地
 として、全校で開墾している写真である。
 比較的平坦な部分を自ら開墾し、乳牛や豚、
 鶏、山羊なども飼育していたそうだ。戦争
 の足音が少しずつ聞こえてきた頃で、勤労
 奉仕や鍛錬の意味合いもあったようである。
 様々な情報が周りにあふれる昨今であって
 も、実体験から得られる感動は何にも代え
 難い。だからこそ、これからも学びの軸で
 あり続けるだろう。



時が止まっているような感覚。
 豊かな自然に囲まれた史跡。人々
 が大切に思い、残してきた奥殿陣屋。
 史跡に足を運んでみると、先人の生き
 方や生活を感じられる。奥殿陣屋では、
 郷土の偉人や歴史を大切に守る営みが続
 いている。

どホ

如月



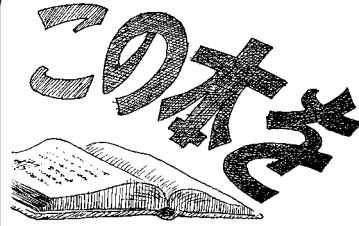
鬼祭り 土鈴販売 (常磐中)

保育園の先生、お花屋さん、消防士
 アイドル、メジャーリーガーなど。子供
 の夢は広く、大きい。
 シンガーソングライターへと一歩を踏
 み出した森氏の勇気と思う。私たち教師
 は、一歩を踏み出そうとする子供
 を応援する存在でありたい。

ホ

ツ

ツバキの花びらが、砂場の山にイチゴ
 のように並べてあった。
 次の休み時間。校庭を駆けていく小さ
 な女の子を二人見つけた。ツバキの花び
 らを握りしめ砂場に向かって走っていく。
 かわいらしい、冬のケーキので
 きあがりである。



*ぬまっちのクラスが世界一の理由 沼田 晶弘
 中央公論新社 ￥1,400

心に残った一文
 ボクが考える「教師」とは、子どもたちの
 能力を引き出す人のことです。

沼田氏は、子供たちのやる気に火をつけさ
 えすれば、あとは子供たちが勝手に自分で伸
 びていくと考えている。教師であれば誰もが、
 子供のやる気スイッチをONにしたいと考えて
 いる。

沼田氏はそのために、毎年「世界一楽しい
 クラスにすること」を目標に、様々な仕掛けを
 考えて実践を積み重ねている。「夢の卒業遠足」
 をはじめ、どれも突拍子もないアイデアのよ
 うだが、それぞれに明確な意図があり、子供
 たちが成長していく姿が盛り込まれている。

情熱だけではだめだろうが、我々には強い
 思いが欠かせないようである。

- * 1分で話せ 伊藤 羊一 ￥1,512
- SBクリエイティブ
- * 日本が売られる 堤 未果 ￥929
- 幻冬舎新書
- * 日本国紀 百田 尚樹 ￥1,944
- 幻冬舎

北野小 都築 和夫